

日本史

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

たしかに、今後、「生活の共同」の中身は今までのような同質性から、むしろ異なるものとの相互性、関係性にもとづく異質性へとシフトしていくことになるだろう。とすれば、もうひとつの安全安心コミュニティの社会設計のためには、同質性を問い直すことが避けられない。齋藤純一がアーレントに依拠して述べているように、同質性を異なる者との相互性にもとづく異質性に変換することは、安全安心コミュニティの社会設計のためには必要不可欠である。(中略)ここで、相互性に関連して(a)日本の地縁のあり方について考えてみたい。日本の地縁はそもそも、相互性＝異質性の内実を豊かに湛えていた。これまでの地縁・(b)町内の最大の特徴は、「階級、職業が混在しており、宗教、信条もきわめて雑多である。そしてそのことがコミュニティ形成の障害にならなかった」という点にある(吉原 2011:82)。つまり異質なものの集まりを通して、その場その場の状況に合わせながら、雑然と共同生活を繰り広げるといった傾向が顕著にみられたのである。そこに位相的な横並びの秩序形成の状況をみてとることができるが、オギュスタン・ベルクは、それを「縁」にかかわらせて次のように述べている。

「第三項を排除しない論理、すなわち『縁』の論理は、不完全性の論理、すなわち『間』の論理を補強する。事実どちらも外的なもの(関係)を重視し、その分だけ内的なもの(本質、固有の実質)を過小評価する。実態Aは実態Bとの関係Cにおいてのみ真に存在するということが前提とされ、逆もまた然りなのである。……AもBもそれ自体では完全には存在せず、他のものでもあるという限りにおいて存在するのである」(ベルク 1988:307～8)

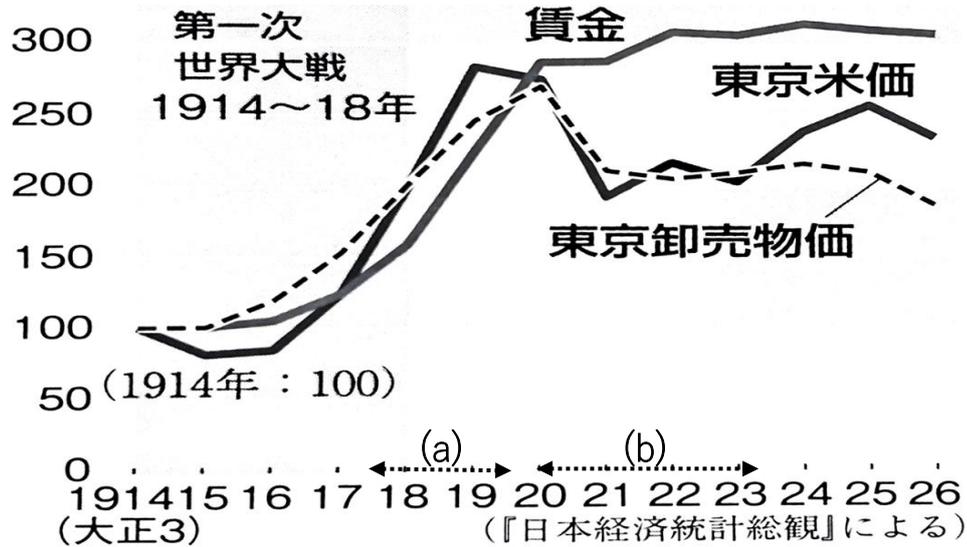
ここでは、位相的な横並びの秩序形成の役割を担うもの、いわば媒質(メディウム)として、人と人との「あいだ」に目が向けられている。実はこの「あいだ」が地縁なのである。しかしこの「あいだ」＝地縁は近代日本の町内会体制の下で均質化・平準化され、同質性を特徴とする、「内」に閉じこもるコミュニティと化してしまった。雨宮昭一によると、その原型は(c)総力戦体制期につくられ、戦後を貫き、(d)高度成長期まで続いたとされている。(雨宮 1997)。

※「コミュニティと都市の未来 ー新しい共生の作法 吉原直樹 ちくま新書」を引用(問題作成の都合上、一部改変)

- 問 1 下線部(a)について、鎌倉時代中期以降の武士においては、従来の血縁的結合が崩壊して地縁的結合を重視する傾向が生じるようになった。そのような傾向が惹起した背景には様々な要因が考えられるが、主として御家人の生活が窮乏化したことが挙げられる。では、そのような窮乏化が起こった理由を多面的に説明せよ。
- 問 2 下線部(b)について、中世後期の京都における町およびその運営について説明せよ。
- 問 3 下線部(c)について、第二次世界大戦期において、町内会・部落会の下に属し、政府の宣伝および伝達を最末端において受けとめる機能を果たした地域組織名を記せ。また、その組織内において、情報や指示を円滑に行い、防空、防火、物資配給を速やかに行うことを目的として使用された媒体名を記せ。
- 問 4 下線部(d)において、日本の高度経済成長において民需を起爆剤とした耐久消費財の普及が果たした役割は絶大であった。そして耐久消費財の中でも特にテレビの存在は経済的にも文化的にも国民に影響を及ぼしたが、テレビの爆発的な普及を促した一要因として、皇室に関するある出来事が挙げられる。その出来事の内容と、それがなぜテレビの普及に寄与したのかを簡潔に説明せよ。

II

次の大正期の物価・賃金動向のグラフを見て、後の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)



※「山川 詳説日本史図録 第8版 詳説日本史図録編集委員会」より引用(問題作成の都合上、一部改変)

- 問1 第一次世界大戦による大戦景気は日本の経済や貿易、文化に影響を与えた。では、大戦景気が日本に与えた文化的影響を説明せよ。
- 問2 大戦景気における日本では様々な社会運動も活発化したが、その原因には何があったのか。上記のグラフの点線部(a)の期間における物価・賃金動向の特徴、および当時の社会的状況を踏まえつつ説明せよ。
- 問3 大戦景気の際における日本経済の進展には多くの事象が関連していたが、その中でも特に鉄道の役割は見逃せない。鉄道事業の代表格として活躍した実業家である小林一三が1907年に創設した、現在の阪急電鉄の前身となる鉄道会社名を記せ。
- 問4 上記のグラフの点線部(b)の期間について、この期間は海外市場の復活・大戦景気や第一次世界大戦終戦後の投機ブームの反動も起因して日本経済が慢性的な不況に陥っている最中にもかかわらず、賃金は高止まりしたままである。その理由を説明せよ。

III

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

GHQがマッカーサー草案の直接起草に踏み切った背景として、幣原内閣の設けた憲法問題調査委員会の作成した「憲法改正要綱」(松本私案)が天皇の統治権を強く残す保守的な内容で、万世一系の天皇が統治権を有することを原理とする国体護持を図ろうとするものだったことに不満をもっていたことが挙げられる。そのうえ、占領政策の最高決定機関である極東委員会がすでに発足しており、活動が本格化する前に、アメリカ主導の占領政策を既成事実化させようとしたことも事実である。政府は、マッカーサー三原則を踏まえたマッカーサー草案をもとに「帝国憲法改正草案要綱」を発表した。この文面からするとマッカーサー草案はGHQが自身の考えのみを集約させたように聞こえるかもしれないが、実際にはその草案には日本側の試みが影響を与えていた。特に、(a)高野岩三郎らによる民間の憲法研究会が主権在民と立憲君主制を採用した改正案である「憲法草案要綱」を作成していたが、この案は日本国憲法の象徴天皇制と基本的に同じ考えを含んでいて、マッカーサー草案にも少なからず影響を与えた。さらに、それ以外にも日本側からの憲法案として、日本共産党による、天皇制の廃止などを主張した「新憲法の骨子」や、日本社会党による、主権は天皇を含む国民協同体としての国家にあると主張した「新憲法要綱」なども発表されていた。そして、GHQは経済改革・(b)教育改革・(c)警察改革など、広範囲な非軍事化・民主化政策を次々に実施し、さらに日本国憲法制定を受けて(d)従来の法律も改正された。

- 問1 下線部(a)について、この人物は戦前において日本最初のある活動を行ったことでも知られる。その活動の内容を簡潔に説明せよ。
- 問2 下線部(b)について、これには国定教科書制度から検定教科書制度への変更という教科書の作成方法の変化も含まれるが、それに関して、日本における最後の国定歴史教科書の名前を記せ。また、教育の民主化に基づく改革として、教育基本法と学校教育法により既存の教育体系が変更されたが、その内容を説明せよ。
- 問3 下線部(c)について、戦後の警察改革としては従来の内務省の廃止が重要な位置を占める。内務省の廃止の過程について、内務省が担っていた役割を明示しながら説明せよ。
- 問4 下線部(d)について、ここで改正された法律に民法が挙げられるが、その法律の何が改正されたのかを説明せよ。